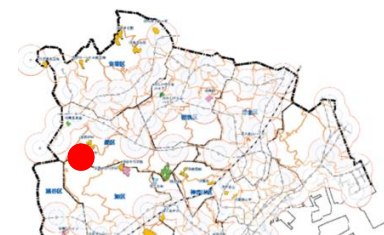


⑩ 高齢化が進む郊外住宅団地における ラストワンマイルを支える移動手段の充実活動

メンバー

実施者：一般財団法人 若葉台まちづくりセンター
連携団体：神奈川県住宅供給公社、横浜市（温暖化対策統括本部、旭区）、
ヨコハマSDGsデザインセンター、
MONET Technologies（株）（運行事業者、病院・福祉施設、託児所）

対象地域：神奈川県横浜市旭区若葉台団地
人口：13,596人（R3 3 末現在、住民基本台帳）



活動目的

丘陵地にあり、高齢化が進む横浜市旭区若葉台（郊外住宅団地）において、「ラストワンマイル」を支える移動手段を充実させ、将来的には、人の移動だけではなく、モノの移動、サービスの移動をオンデマンドで実施できるようにし、社会課題の解決を通じた団地の付加価値向上を図るとともに、脱炭素化を目指す横浜市の政策課題の解決に向け、SDGsの視点から移動を通じた環境配慮型のまちづくりを目指すことが目的である。

取り組み内容

キーワード：・オンデマンド/IT活用/買い物代行/子供の送迎/地域連携/持続可能な事業スキーム

1. 利用者動向の調査：朝・夕の利用が多く、保育園への通園利用が多いことが明らかになった。福祉施設や買い物代行などの利用は低調であることが分かった。
2. オンデマンドバスの運行：ラストワンマイルを埋めること、すでに運行しているコミュニティバス「わかば号」の乗り残し（特に子育て世代）解消を目的に実施。利用者数1,052人（目標を下回ったが、コロナ禍の中、一定の需要と地域における認知が得られた）



2020年度の活動実績

オンデマンドバスの実証実験：2020年10月から22日間、買い物代行など付帯サービスの需要把握を目的に実施。利用者数1,052人（目標を下回ったが、付帯サービスの需要可能性が得られた）

取り組みが地域に与えた影響

- （量的な影響の例）
- ・ 518人のアプリ登録、1052人の利用（2020年10月の1か月の利用）
 - ・ アプリ登録者のうちアクティブユーザー14%
 - ・ 外出機会が増えそうと回答した割合が4割（乗車後アンケート結果）
- （質的な影響の例）
- ・ 上川井地域の住民が若葉台団地の商業エリアに足を運ぶ機会が増えた
 - ・ 周辺の保育園、幼稚園、大学、福祉施設との連携機会が増えた
 - ・ スマートフォンを使う高齢者が増えた

取り組みで得た知見（これから取り組む方に伝えたいこと）

単に移動の充実だけを考えるのではなく、まちづくり全体から課題を把握し、課題解決に向けた多様なサービスを提供することが必要。法的にもクリアできる持続可能な事業スキームを構築するために、真の意味での、官民・地域連携が必要。

専門家コメント_福島大学

- ・ オンデマンド交通の実証が取り組みの中心であったが、付帯サービスへのニーズや目的地サイドとの連携可能性が見えてきた。高齢化が進む住宅団地は、暮らしや移動の課題を新たに抱えるケースも多く、この取り組みを起点に、団地内のモビリティデザインに発展させることが期待される。
- ・ 人口密度が高めの団地で、移動手段を複数にすることで、移動支援を受けられる人を増やすための実験を行ない、課題を的確に見つけた。まちづくりをベースにした取り組みが良い。